第2節　都市空間の創造に当たっての基本的な考え方～おおむね20年先を展望～

1　都市空間創造の基本目標

前節で導き出した取組の方向性から、これからの都市空間を創造するための基本目標を次のとおり設定します。

取組の方向性

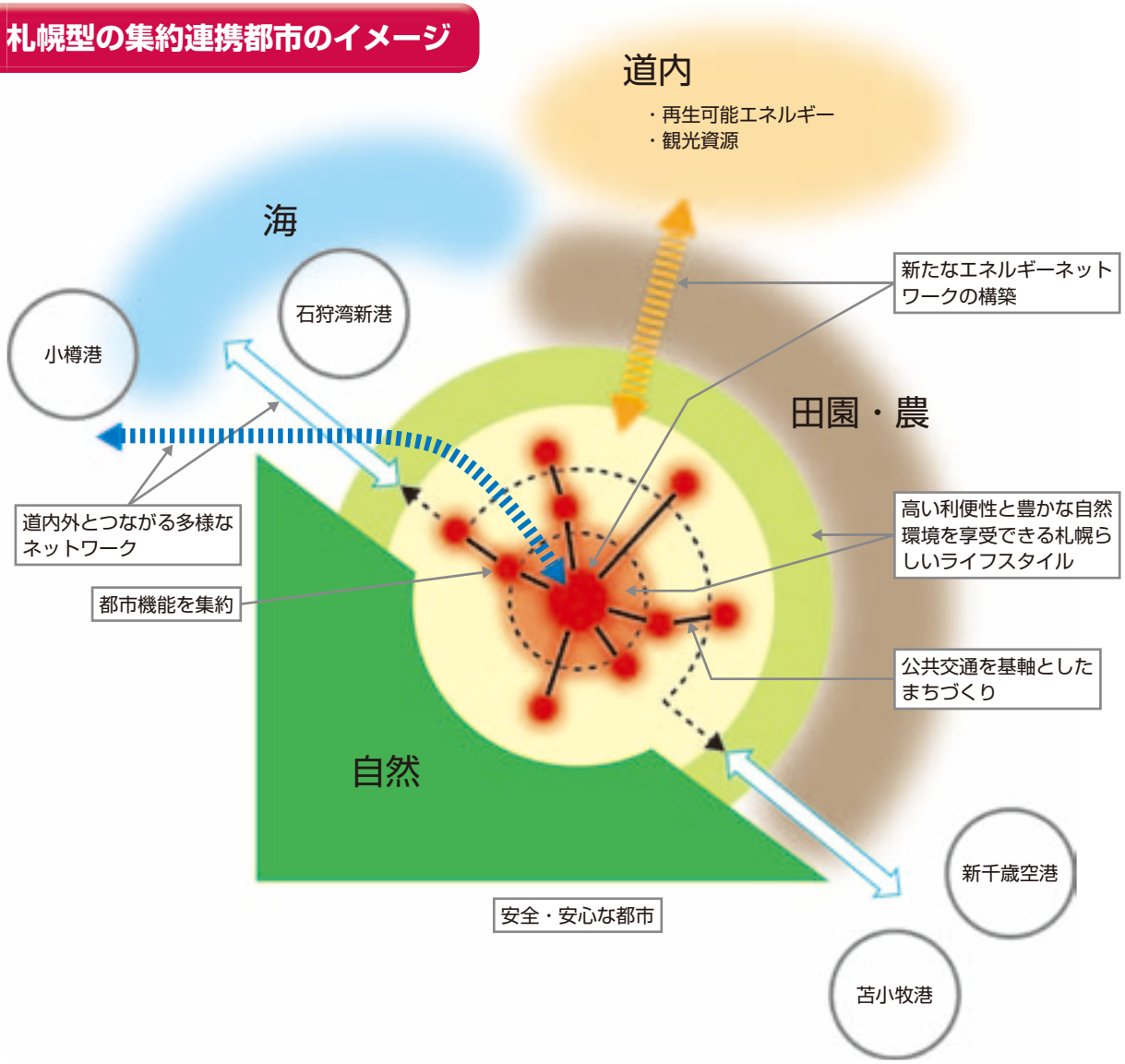
都市基盤	暮らし・コミュニティ
・都市基盤の効率的な維持・保全	・超高齢社会を見据えた都市機能の集約 ・地域の特性に応じた取組の展開
産業・活力	**低炭素社会・エネルギー転換**
・経済を支える交通ネットワークの強化	・公共交通を基軸としたまちづくりの推進 ・エネルギーネットワークの強化

基本目標

持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築を進める

○超高齢社会を見据え、地下鉄駅の周辺などに、居住機能と生活を支える多様な都市機能を集約することで、効率的に都市サービスを享受できるコンパクトな都市
○良好な環境を備える郊外での暮らしが選択できるなど、住まいの多様性が確保された札幌らしいライフスタイルが実現できる都市
○公共交通を基軸としたまちづくりの推進や、新たなエネルギーネットワークの構築などによる環境都市
○都市の活力を創出するため、道内外と多様な交通ネットワークでつながる、北海道の中心都市
○都市基盤が効率的に維持・保全され、災害に強い安全・安心な都市

札幌型の集約連携都市のイメージ



都市空間の創造に当たっての「コンセプト」

札幌型の集約連携都市への再構築を進めるため、都市空間の創造に当たっての「コンセプト」を以下のとおり設定した上で、次項において、目指す都市空間を示します。

Sustainability
持続可能性

Livable
安心・快適で質の高い生活

市民・企業と共に
創り上げていく都市

共創都市さっぽろ
～ S・L・I・M City Sapporo ～

Innovation
創造性の発揮

Managing
エネルギーやモビリティなど
多様なマネジメント

※S・L・I・M(スリム)とは、Sustainability(持続可能性)、Livable(安心・快適で質の高い生活)、Innovation(創造性の発揮)、Managing(エネルギーやモビリティなど多様なマネジメント)の頭文字を指し、S・L・I・M City Sapporoとは、これらを包括した都市の概念

2　目指す都市空間

都市空間創造の基本目標を実現するためには、市民・企業が共に目指すべき都市空間を共有することが必要です。

そこで、目指すべき都市空間を、都市空間の種別（市街地、都心、拠点、ネットワーク、都市基盤）に分けて、以下に示します。

(1)　魅力ある市街地

ア　複合型高度利用市街地

定義	おおむね環状通の内側と地下鉄の沿線、地域交流拠点に位置付けられている JR 駅の周辺

快適で効率的な都市活動が展開できるよう、都心周辺や地下鉄沿線などの利便性の高い地域において、良好な都市景観の形成を図るとともに、集合型の居住機能と、居住者の生活を支える多様な機能の立地を促進することで、比較的高密度で質の高い複合型の市街地を目指します。

イ　郊外住宅地

定義	札幌市住区整備基本計画[191] などに基づき、低層住宅地を主として計画的に整備してきた地域

自然と調和したゆとりあるライフスタイルが実現できる低層住宅を主体とした良好な市街地を維持・保全していくために、日常生活を支える機能の立地などに対応するとともに、地域の足となる生活交通の適切な確保などにより、高齢者も含め、誰もが安心して暮らすことができる住宅地を目指します。

ウ　一般市街地

定義	複合型高度利用市街地と郊外住宅地以外の地域

[191] **【札幌市住区整備基本計画】**より快適で安全な生活圏の形成と秩序ある開発誘導を図るため、札幌市が昭和 48 年に策定した計画。住んでいる人が徒歩で行動できる範囲を一つの「住区」として捉え、各住区内に基幹施設として学校、公園、道路を適正に配置することを目指している。1 住区は、鉄道や幹線道路などによって形成される面積約 100 ha、人口約 1 万人を標準としており、計画策定区域は市街化区域のうち、昭和 45 年の人口集中地区などを除いた約 15,000 ha（132 住区）を対象としている。

戸建て住宅や集合型の住宅など、地区の特性に応じて、多様な居住機能と居住者の利便や就労などを支える機能が相互の調和を保って立地する住宅地と、工業地・流通業務地などから構成される市街地を目指します。

(2) 活力があふれ世界を引きつける都心

定義	JR 札幌駅北口の一帯、大通東と豊平川が接する付近、中島公園、大通公園の西側付近を頂点とする、ほぼひし形に広がる区域

高次な都市機能の集積や魅力ある都市空間の創出など、札幌の顔にふさわしいまちづくりを重点的に進めていくことで、市民生活の質の向上を支えるとともに、札幌を世界にアピールすることができる、魅力的な都心を目指します。

また、地下歩行ネットワークや路面電車の更なる活用などによる回遊性の向上や、都心内の交通環境の改善を図るなど、人を中心としたまちづくりを推進します。

さらに、エネルギー消費量の抑制や、災害時の都市活動の持続性を高めるために、先進的かつ積極的なエネルギー施策の展開により、環境首都・札幌を象徴する都心を目指します。

(3) 多様な交流を支える交流拠点

ア 地域交流拠点

定義	交通結節点である主要な地下鉄・JR 駅の周辺で、都市基盤の整備状況や機能集積の現況・動向などから、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域

周辺地域の住民もアクセスする場としての利便性を高めるため、区役所などの公共機能や、商業・業務・医療などの中核的な都市機能の集約を図るとともに、これらの都市機能を身近に利用することができるよう、居住機能との複合化を促進します。

特に地下鉄始発駅などでは、後背圏に広がる郊外部の住民の生活を支えるとともに、近隣の魅力資源や隣接都市、空港・港湾などとの連携を意識した多様な機能を整備したゲートウェイ[192]拠点として位置付け、その機能向上を促進します。

また、空中歩廊や地下歩行ネットワークへの接続など、冬でも快適な歩行空間の創出を促進することなどにより、高齢者なども安心して暮らすことができるまちを目指します。

192【ゲートウェイ】玄関口。

○地下鉄始発駅
　新さっぽろ、宮の沢、麻生・新琴似、真駒内、栄町、福住
○その他
　大谷地、白石、琴似、北24条、平岸、澄川、光星、月寒、手稲、篠路、清田

イ　高次機能交流拠点

定義	産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点

　産業や観光、文化芸術、スポーツなど、札幌が持つ高次な都市機能を十分に生かし、国内外からの投資や多くのヒト・モノを呼び込むために、必要な基盤・施設の整備や、都市機能をさらに高める取組の推進などにより、魅力と活力あふれる都市を目指します。

円山動物園周辺、藻岩山麓周辺、北海道大学周辺、苗穂、東雁来、モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺、大谷地流通業務団地、東札幌、札幌テクノパーク、札幌ドーム周辺、定山渓、芸術の森周辺

(4)　持続可能な都市を支えるネットワーク

ア　交通ネットワーク

　過度な自動車利用を控えた生活を支える、公共交通を中心とした交通ネットワークを更に活用していくため、交通結節点の整備や、地下鉄の利便性の向上等による利用促進を図るとともに、地域の移動を支えるバスネットワークの維持・向上に向けた取組などを進めます。
　また、都心での快適な移動を支えるとともに、個性的な景観や魅力的な空間を演出する路面電車については、そのループ化の推進や延伸の検討を進めるとともに、路面電車沿線の魅力向上を図ります。
　さらに、市内交通の円滑化を図るとともに、都市間・地域間連携や空港・港湾へのアクセスを支える骨格道路網を始めとする交通ネットワークの強化を図ります。
　加えて、北海道新幹線の札幌延伸効果を道内に波及させるためにも、これを見据えた交通ネットワークの強化などにより、市民生活や経済・観光などを支える円滑な交通ネットワークの構築を目指します。

イ　みどり豊かな空間のネットワーク

みどりの持つ機能が効果的に発揮されるように、骨格的なみどりのネットワークである環状グリーンベルト[193]やみどりの軸（オープンスペース・コリドー[194]）の充実につながる公園・緑地・河川の整備、みどりの保全を推進します。また、人口構造の変化等に伴い、公園などの利用形態も変化していることから、地域のニーズ等に合わせた公園の機能再編や再整備に取り組むほか、都心周辺部では、公園・緑地を整備するとともに、再開発や緩和型土地利用計画制度等を活用しながら、良好なオープンスペースの充実を図ることなどにより、札幌らしい、みどり豊かな都市を目指します。

ウ　エネルギーネットワーク

低炭素社会と脱原発依存社会の実現のために、既存の熱供給に関する基盤を有効に活用しながら、都心や拠点などにおいて、自立分散型のエネルギー供給体制と、これをつなぐネットワークの確立を進めるとともに、都市開発等に合わせたエネルギーネットワークの構築などを促進します。

また、再生可能エネルギーに関する広域的な活用促進などによる創エネルギーの推進により、エネルギーの利用効率と安定性が高い都市を目指します。

(5)　都市基盤の維持・保全と防災力の強化

公共サービス経費の増大を抑制しながら、ニーズに合わせた効果的な市民サービスの提供により市民生活の利便性を確保していくために、将来的な人口規模などを見据えながら、都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全や機能の見直し・複合化などを推進します。

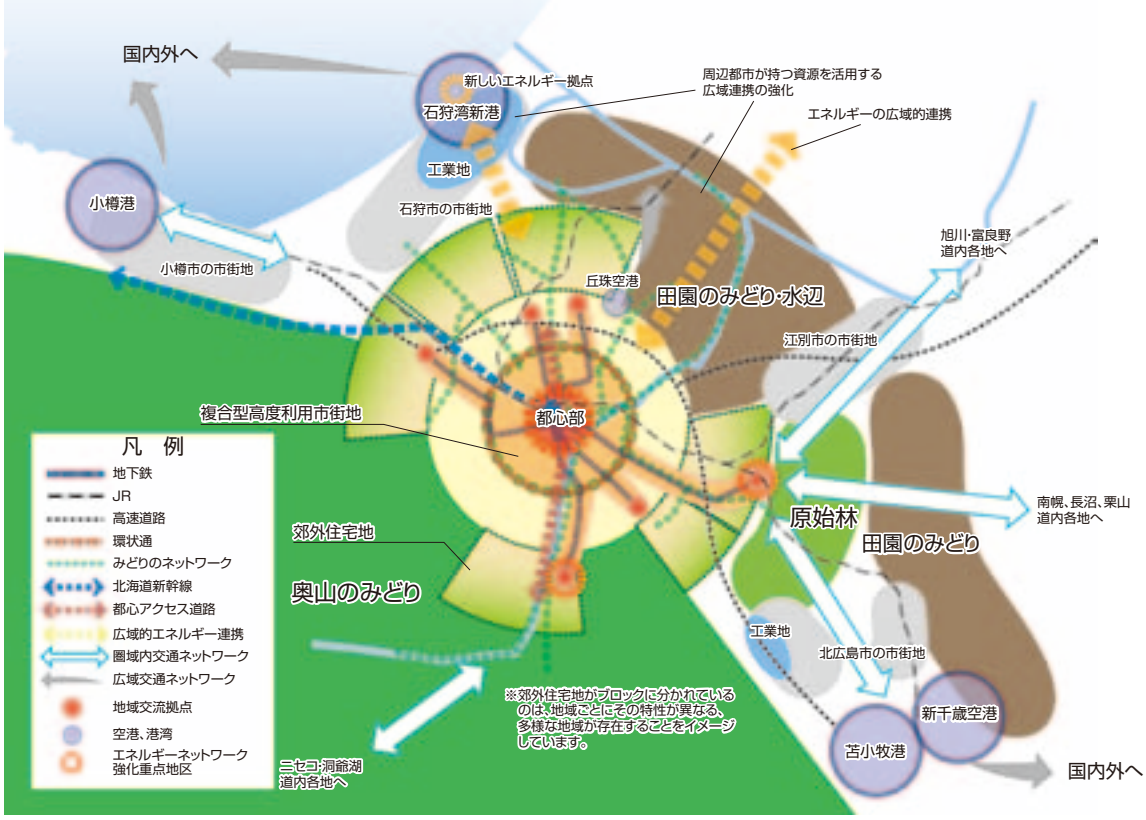
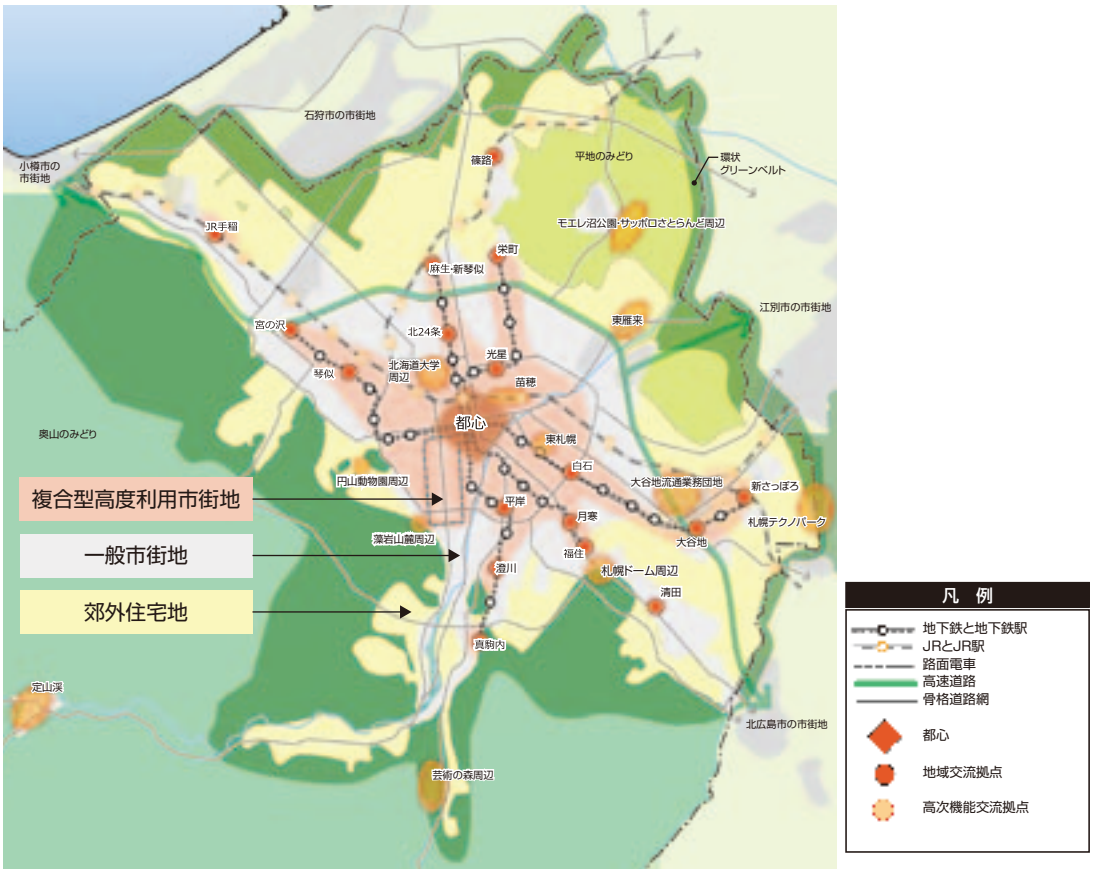
また、地震や大雨等の災害に強い都市を構築していくために、施設や道路・上下水道などの維持・保全と併せて、耐震化等を計画的に進めることにより、安全・安心な市民生活が実現する都市を目指します。

---

193 **【環状グリーンベルト】** ここでは、札幌の自然条件を生かして、市街地をみどりの帯で包み込むものをいう。

194 **【オープンスペース・コリドー】** コリドーの本来の意味は「廊下」「回廊」など。ここでは、市街地を貫通し、都市にうるおいをもたらすオープンスペースの軸となることを目指すものとしてコリドーと称している。

札幌型の集約連携都市　将来の都市空間図



市街地区分・主要な拠点の位置図